

療養生活支援多職種研修会 アンケート集計結果報告書



在宅ゆい丸センター

一般社団法人 中部地区医師会
在宅医療・介護連携推進事業

日時：令和5年9月28日（木）19：00～21：00

開催方法：会場（NBC 結婚式場） + オンライン（Zoom）開催

テーマ：「在宅療養生活における服薬管理～各職種の関わり方と多職種連携～」

周知方法：開催案内文書の郵送、当センターHP掲載、メーリングリスト一斉送信、FAX送信

周知範囲：中部地区12市町村の医療介護関係施設（約1700か所）、他

●参加者数

会場 参加人数：62名 アンケート回答数：53名（会場回答率：約85%）

Zoom 参加アカウント数：48アカウント

アンケート回答数：35アカウント（Zoom回答率：約73%）

48-35=13（13アカウントはアンケート未回答により人数把握ができないため、視聴人数を1名とする。）

アンケートに回答した35アカウントの視聴人数：計41名 ※下記参照

Zoomトータル視聴人数：13名+41名=54名

合計 参加人数：62名（会場）+54名（Zoom）=116名

トータル参加人数 116名

アンケート回答率：80%

●Zoom：1台の機器で視聴した人数の割合（n=35）

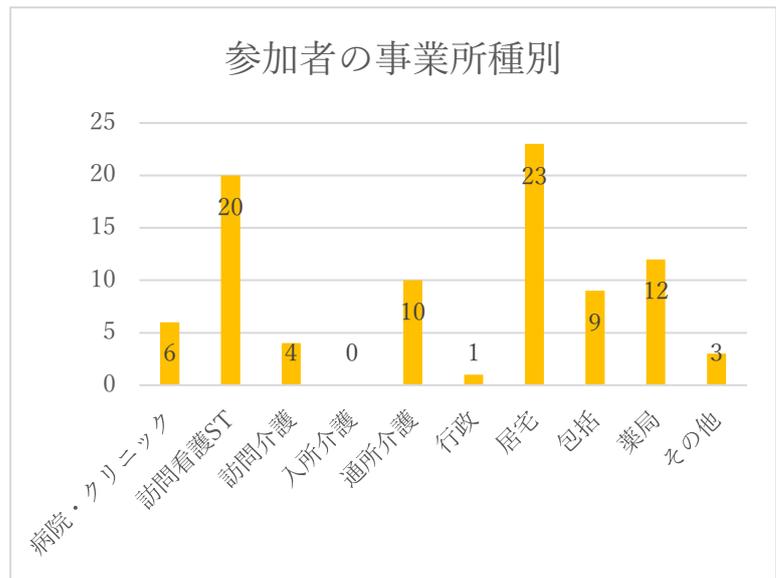
	数	割合
1人で視聴	29	83%
2人	6	17%
計	35	100%

1人×29アカ = 29人
2人×6アカ = 12人
+ 35アカ 41人

※以降のアンケート集計は、会場・Zoom回収分を合計し集計（n=88）

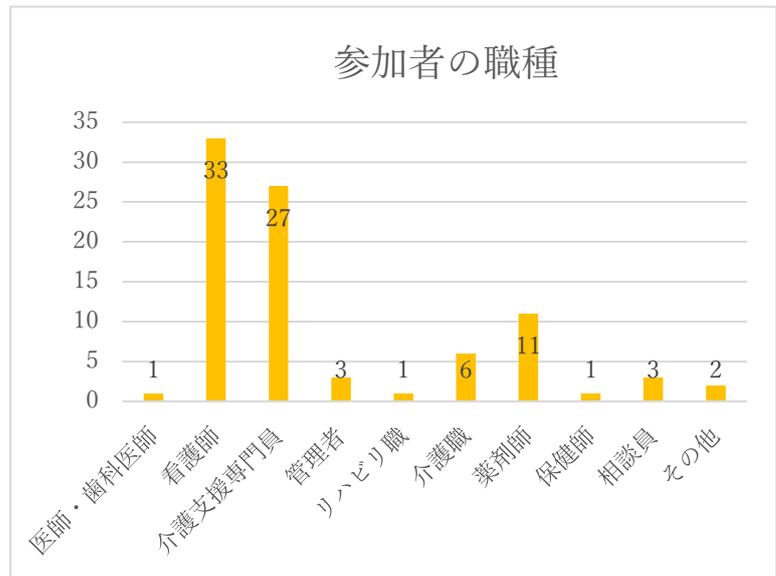
●参加者の事業所種別 (n=88)

	数	割合
病院・クリニック	6	6.8%
訪問看護 ST	20	22.7%
訪問介護	4	4.5%
入所介護	0	0.0%
通所介護	10	11.4%
行政	1	1.1%
居宅	23	26.1%
包括	9	10.2%
薬局	12	13.6%
その他	3	3.4%
計	88	100.0%



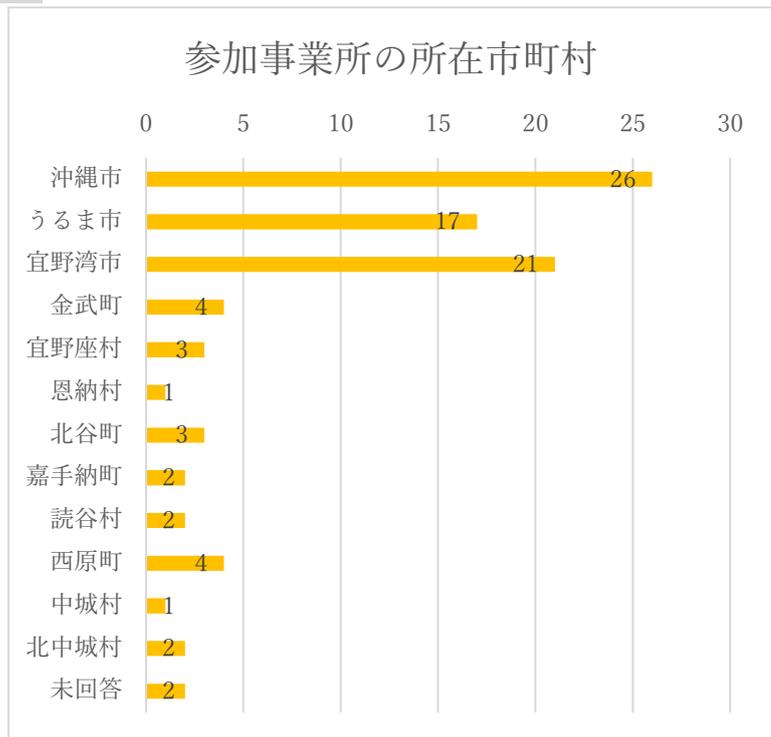
●参加者の職種 (n=88)

	数	割合
医師・歯科医師	1	1.1%
看護師	33	37.5%
介護支援専門員	27	30.7%
管理者	3	3.4%
リハビリ職	1	1.1%
介護職	6	6.8%
薬剤師	11	12.5%
保健師	1	1.1%
相談員	3	3.4%
その他	2	2.3%
計	88	100.0%



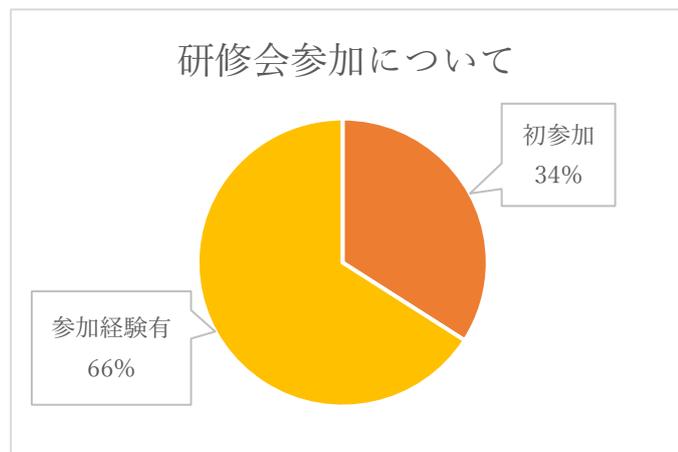
●参加事業所の所在市町村 (n=88)

	数	割合
沖縄市	26	29.5%
うるま市	17	19.3%
宜野湾市	21	23.9%
金武町	4	4.5%
宜野座村	3	3.4%
恩納村	1	1.1%
北谷町	3	3.4%
嘉手納町	2	2.3%
読谷村	2	2.3%
西原町	4	4.5%
中城村	1	1.1%
北中城村	2	2.3%
未回答	2	2.3%
計	88	100.0%



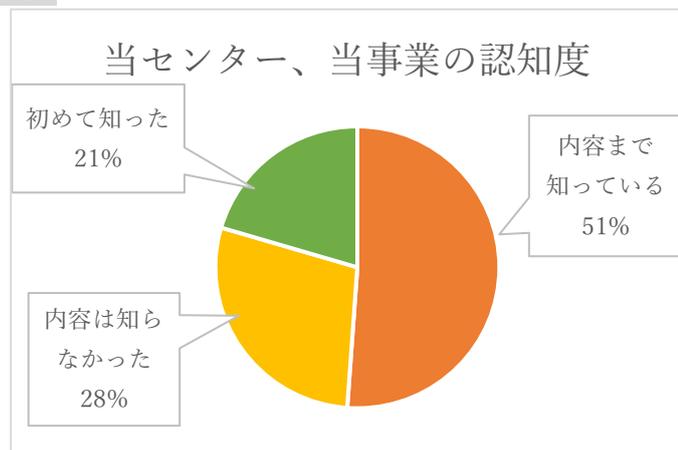
●研修会への参加について (n=88)

	数	割合
初めて参加した	30	34.1%
参加したことがある	58	65.9%
計	88	100.0%



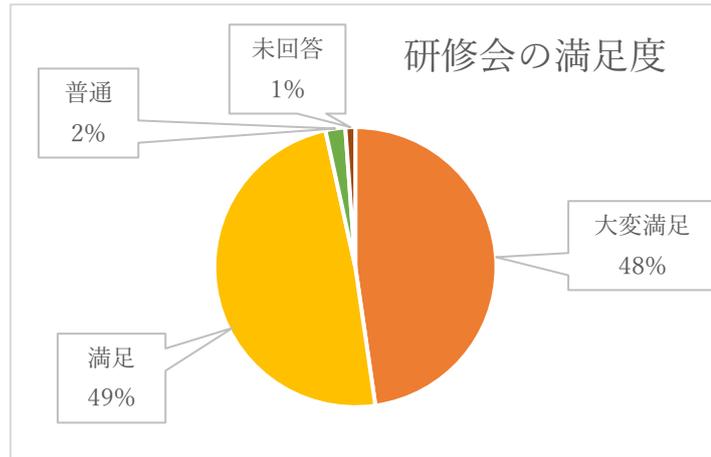
●当センター、当事業の認知度 (n=88)

	数	割合
内容まで知っている	45	51.1%
内容は知らなかった	25	28.4%
参加して知った	18	20.5%
計	88	100.0%



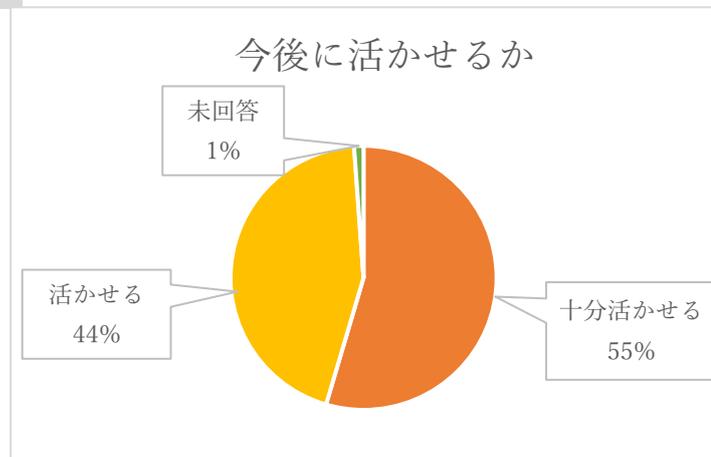
●研修会の満足度 (n=88)

	数	割合
大変満足	42	47.7%
満足	43	48.9%
普通	2	2.3%
未回答	1	1.1%
計	88	100.0%



●今後の業務に活かせるか (n=88)

	数	割合
十分活かせる	48	54.5%
活かせる	39	44.3%
未回答	1	1.1%
計	88	100.0%



●記述式アンケート結果

【当研修会の感想】 ※会場参加者のみ聞き取り

1	訪看さんのパワーを頼もしく思いました。医療面での支援について気づきをもらえて大変有意義でした。
2	普段意見を聞く機会がない職種の方の意見を聞いてよかった。
3	多職種の方たちと連携をとり1人では悩まない。みんなと相談。
4	研修会ありがとうございます。多職種連携が学びになりました。今後ともよろしくお願ひします。
5	色々な意見を聞いて非常に有意義でした。
6	多職種連携について、沢山の学びがありました。自社にて持ち返って、活用できるよう、皆に周知していきたいと思ひます。
7	直接多職種の皆さまの意見を聞いて、大変タメになりました。
8	皆さん難しいテーマに対し、いろいろな考え方で取り組んでいると感じました。
9	多職種を交えた色々な意見が聞けた。
10	服薬管理で困っている利用者が多いため、かなり参考になりました。

11	他職種の視点を聴くことで、色んな引き出しが増えるので貴重な時間でした。
12	他の視点からの話が聞けたり、情報や、他事業所からの悩み事なども聞けたので大変参考になった。
13	各専門的立場から意見・アイデアの交換ができて刺激になりました。
14	それぞれの職種の方の視点を知れてよかった。人それぞれ着目する所も違いがあって、気づきもありました。支援は人との関係なので、もっと会いに行こうと思いました。
15	いろいろな立場からの考えを伺える、素晴らしい機会でした。ありがとうございます。
16	参加して、いろいろな意見が聞く事ができよかったです。ありがとうございました
17	改めて連携の大切さを知る事が出来ました。
18	多職種との意見交換ができてとてもいい機会になりました。
19	積極的な意見交換がすごく学びになりました。さまざまな職種の方と会えて話せてすごく良い機会でした。ありがとうございました。
20	他市町村の方々、普段関わりが少ない薬剤師の話が聞いて良かった
21	多職種それぞれの専門性のある意見や経験などが、グループワークを通して有意義な意見交換ができたと思います。
22	他職種の考え方や意見を聞く事ができ、知らなかったことを知ることができたので、これから参考にして訪問看護で実践していきたいと思いました。在宅医療に携わる方々は皆さん温かい人達だなと感じた♡
23	初めての参加でしたが、多職種連携の大切さが利用者の日常生活、服薬状況の向上に必要であると思いました。明日からの業務に大変に参考になりました。
24	多職種連携の重要性を改めて感じる事ができました。また、普段関わりの無い職種の方とも意見交換ができ良かったと思います。
25	とてもよかったです。
26	グループ内でも職種によって意見や考えが違い勉強になった
27	他職種の視点を聞いて、とても良かったです
28	初めて、介護等の世界に触れましたが、今後、いろいろと勉強していきます
29	これまで薬剤師との関わりがなく、訪問薬剤師の仕事もあまり分かっていなかったのを知れて良かったです。薬剤師とどう繋がるか考えていきたいと思いました
30	多職種の役割や考え方などが聞いて大変よかったです。
31	多職種連携の大切さを実感しました。アプローチの仕方、患者の気持ちを考えて今後の業務に活かしていきたいです。
32	今後は、医療・介護だけではなく地域の協力も必要なのかと、訪問薬剤師を利用する事で、薬の量が多い方の残薬調整もでき本人とってもいいケア等ができると思いました。
33	多職種の意見、とても参考になりました。
34	多職種と連携し色々意見交換をして介護現場で実践していきたいと思います。今回の在宅医療生活における服薬管理に対して利用者様にあった環境で対応していき常に服薬できるよう心掛けていきたい。
35	改めて残薬の多さや服薬コンプライアンス等、問題点も認識できた。選ばれる薬剤師（石

	田先生のような) になれるよう頑張ります
36	服薬管理についてのグループワークは初めてであったので、今日は、とても有意義のある研修でした。
37	多職種のいろんな視点が合わさる事で、新たな気づきがあり、大変勉強になりました。
38	様々な意見が聞けて参考になった
39	多職種の意見を聞くことができ、とても参考になりました。連携がとても大切であることがよくわかった
40	本人の服薬がうまくいくように地域の関わりからアプローチして、本人との関係性を築けるよう話し合いが進んでいたことが、病院内では気づけない内容でよかった。病院の退院支援でも意識したい
41	新しい学びがあった
42	多職種での活発な意見交換会はたのしかった。多職種で話し合うことで、いろんな方法があることを知れたのでよかった。
43	多職種連携も重要性をあらためて思った。
44	事例発表、グループワークでの多職種の皆様の声が聞けた事にとっても勉強になりました。もっと、もっと、多く、相談したり、頼ったりとする事も頑張ります。
45	とても良かった。続けてほしい。他職種という面で刺激になった。内容も身近で取り組みやすい。

【開催して欲しいテーマや、その他ご要望】

1	みとりについての研修、学びたいです。
2	認知症の在宅症例とその対応についての連携
3	医療側と福祉間でもディスカッションの難しさに関する事など
4	障害福祉サービス
5	独居高齢者の介護保険サービスの理解の方法
6	他者の支援を受けようとする方への支援方法等
7	独居、認知の方の、サービス介入、案件など多数あればききたい。
8	認知症の方への技技別のアプローチ方法を知りたいです。
9	在宅における、終末期ケア
10	今日のような成功事例、うまくいった事例をもっととりあげてほしい
11	次回の研修にも興味があり参加したいです。
12	地域とつながっている成功例を知りたい
13	栄養管理
14	困難ケースの事例をもっと検討したいです。
15	多職種とのかかわりができる研修にまた参加したいと思いました。研修ありがとうございました。
16	胃瘻は本当に必要か？先進国との考え方のちがいについて

17	在宅診療の導入方法について受講したいです。今後さらに在宅介護の必要性が増加すると思うので。
18	在宅での他職種の仕事の内容について詳しく知りたい。
19	精神科デイケア、アルコール依存症プログラム等と、医療介護支援の連携について
20	意思決定支援とホスピスへつながるまでの連携をテーマにした研修
21	看取りについて、入退院の連携
22	最近住民向けの出前講座でお薬に関する講座があり、関連して学ぶことができました。従来はお薬イコール訪問看護でしたが、訪問薬剤師の働きが多職種連携へ周知できれば更にいいサービスが提供出来ると考えます。食べる機能の維持を図るための取り組みを多職種連携で行った事例などについての研修会があれば良いかと考えます
23	入退院支援
24	在宅生活の課題は多くあるので定期的な課題に対しての多職種の連携の研修があれば今後も参加したいと思います
25	精神疾患利用者さんの在宅支援について
26	訪問看護を導入することについて
27	身寄りが無い、又は遠方の方の通院支援（経済的にも民間サービスは厳しい
28	利用者の家族に問題があり、どのような関わり方がよいのか事例を聞いてみたい。
29	虐待防止の研修
30	看取り(有料、自宅…等)について
31	居宅療養管理指導
32	独居の方の支援などの研修会などに興味があります。
33	褥瘡などの皮膚関連
34	フレイル予防(栄養指導、運動など)
35	介護度が改善した事例
36	医療機器、医療材料について
37	看取り、緩和、末期がん、麻薬の使用について
38	認知症が疑われる方で本人に自覚がない場合の受診のつなぎ方、その家族への支援について知りたいです。
39	在宅医療への参加の多職種連携について
40	医師との連携について。
41	医師が介護に求めるものを知りたい。

＼座長・登壇者の皆さん／



＼会場の様子／



＼グループワークの様子／



＼グループ発表の様子／



●グループワーク意見交換記録（会場のみ）

トークテーマ 1

- ①現在の状況と、今後の事を考え（想像し）、Aさんの安定した療養生活を継続させるために、自身の専門性をもって何に注目し、どのように関われると思いますか？
それにより、服薬管理の工夫にどのように繋がると思いますか？
- ②登壇者発表やグループ内の意見交換で、新たな気づきや再確認できた事項などはありましたか？

看護師

- ・本人を見守る人を増やせるといい。
- ・本人の「迷惑はかけたくない」の気持ちにアプローチする。
- ・今後、認証進行により服薬管理がさらに難しくなることが予想される。お薬カレンダーを分かりやすく活用できないか工夫。
- ・入院したきっかけを一緒に振り返る。
- ・今の生活を守り続けるためには？服薬の促しを妹さんにも依頼できるか。
- ・自立度は高い。工夫すれば自己管理は可能なのでは？薬を飲まない事で出現する症状をきちんと説明すれば理解するかも？
- ・飲めていない状況を確認→主治医と相談し、薬の一包化や訪問看護へ繋ぐ（居宅療養管理指導）
- ・入院中の奥さんから電話、ビデオ通話で「体壊さないように、健康でいるように、薬きちんと飲んでください」と声掛けしてもらう。
- ・食事はきちんとできている？栄養士さんの活用。栄養指導（住民健診等）

ケアマネ	<ul style="list-style-type: none"> ・老人会などに見守り依頼を働きかけてみる。 ・本人の「迷惑をかけたくない」の気持ちを大事に、困っている事を解決できる方法を話しながら引き出す。 ・本人の自己肯定感を高めるため、事前に、本人に関わる周りの人たちで一貫した態度を取るよう連携する。 ・本人の職業気質の性格をきちんと把握する。 ・デイサービスの利用→通所スタッフとの関わりをうまく持つ事を優先し、慣れたら回数を増やしていく。通所スタッフが日常の変化に気づける。 ・人と関わる事が増えたら緊張ほぐれる？ ・本人が行きたいと思えるデイサービスを探す。 ・妻の言う事は聞き入れるのであれば、妻の知り合いから「奥さんに頼まれて」というと受け入れるきっかけにならないか？ ・民生委員、自治会長、区長さん等（独居の人を気にかけている）に伝え、地域会議での議題に上げる。
薬剤師	<ul style="list-style-type: none"> ・薬を飲む習慣を癖付けできるよう工夫する。（薬の一包化、回数を減らす、お薬カレンダーにタイマーを付ける） ・薬に対する認識を他職種から伝える。 ・入退院を繰り返している→薬剤師との関係性構築 ・飲みたくないのか？必要ないと感じているのか？きちんとヒアリング。 ・心不全→利尿剤→トイレ増えるから飲みたくない？ ・服薬カレンダーの設置で服薬チェック。（デバイス：お薬ロボット等の導入／日めくり薬を貼り付けはがして飲んでもらう／薬袋へ日付を記入し自己管理）←個々に合わせて対応を考える。 ・周囲のサポートを本人が受け入れてくれるか？注意してアプローチ。
介護士	<ul style="list-style-type: none"> ・デイサービスを利用してくれたら。作業療法で何かを手伝ってもらい、この人しか持っていない能力を見つけられると日々の楽しみが作れる。 ・デイサービス回数増やせると、認知症の進行予防できる。 ・本人の強み、役割、関わりを持たせる（草刈り、賃金を得る） ・デイサービスでは、服薬の声掛け、確認、体重測定等ができる。連絡ノート等を活用して関係者と情報共有できるといい。
MSW	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの経験を踏まえて上手に役割を作れたら。周りの人に感謝される経験→他者の受け入れに繋がる。 ・当面独居生活になるので、インフォーマル資源（妹、老人会、隣近所）やフォーマル資源（訪問看護、訪問介護、宅配サービス）を入れる事で、本人の安否確認、服薬確認ができる。
<ul style="list-style-type: none"> ・本人の自己肯定感を高めるよう想いを引き出し、何が必要か、本人と解決策を考える。 ・本人の自覚「どうしたいのか？」を確認。思いを吐き出させて決めてもらう。 ・信頼関係の構築が重要。I（アイ）メッセージ：「私たちが心配しています」というスタンス 	

で関わっていく。頼られると対応してくれる。自尊心を大切に、保てるよう支援。

- ・なぜこの薬が必要なのか？を理解してもらうアプローチ。出現する症状や身体への影響。
- ・繋がりがきっかけで本人が変わる。

トークテーマ2

今日の内容を、今後の業務にどのように活かせると思いますか？（仕事の実践、姿勢、学習など何でも）。「明日から絶対やるアクションプラン」を1つ決め、共有しましょう。

- ・一方的なアプローチではなく、患者の考えている事、言葉を引き出すようにする。
- ・本人の強みを見つける。
- ・問いかけ、本人に意識してもらう。
- ・本人らしく生活できるよう、支援者（関係者）と連携する。
- ・寄り添い、第一。
- ・生活背景の理解。その人の強みをどう活かす事ができるかを考えて実践する。
- ・薬を渡しながらも、残薬確認や家族背景、生活背景の理解を心がける。
- ・本人が積極的にやっていけるよう取り組む。
- ・男性は寡黙な人が多い。コミュニケーションを大切にしたい。名前は覚えられなくても「見た事ある」と言われるくらいになる。
- ・今後の繋がりを継続できるように関わる。
- ・できない自分をさらけ出せるような関係作り。奥さんの前では今までの自分でいていいんだよ！と言えるように。本人がSOSを出せるようコミュニケーションを大切にする。
- ・多職種連携（医療、介護だけでなく社協や運動教室等も）を意識する。
- ・入院時には、24時間以内にサマリーを送信できるようにする。（特に新規の方の入院時は病院も助かると思う）
- ・医師や看護師の医療従事者と積極的に話をして、聞いて、いい方法を探れるようにする。